

アム

主な記事

2~3面 「コロナ自粛」どう過ごした?/「コロナ自粛」期間中、働き方はどう変わった?/LINE相談から見てきたこと/あるシニア男性のひとりごと他
4面 立川・この人/令和2年度立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所紹介

発行/立川市男女平等参画課
企画・編集/アム市民編集委員
(〒190-0012)立川市曙町2-36-2
☎ 042-528-6801 FAX 042-528-6805
e-mail danjobyoudou@city.tachikawa.lg.jp

立川市ホームページ <https://www.city.tachikawa.lg.jp>



立川市民を中心に535人に聞きました!〔緊急アンケート実施〕 わたしたちの「コロナ自粛」レポート

新型コロナウイルスの感染予防のための「自粛期間」、私たちの暮らしや働き方は大きく変わりました。全国でほぼ一斉に実施された休校や、緊急事態宣言前後に広まった時短勤務やリモートワークなどにより、家で過ごす時間が増え、食事の用意や休校中の子どもの世話など、家事や育児の負担が増えました。

「アム」では、この「コロナ自粛」期間を立川市民がどう過ごしたのか、また増えた家事や育児の仕事をどう夫婦で分け合ったのか、簡単なアンケートを実施しました。その結果から見てきたことは?



コロナ自粛期間中、家事は妻・夫どちらが行いましたか?

〔回答者288人(253人・35人) 回答者数はオレンジが女性・緑が男性〕

主に夫4.2%
(8人・4人)

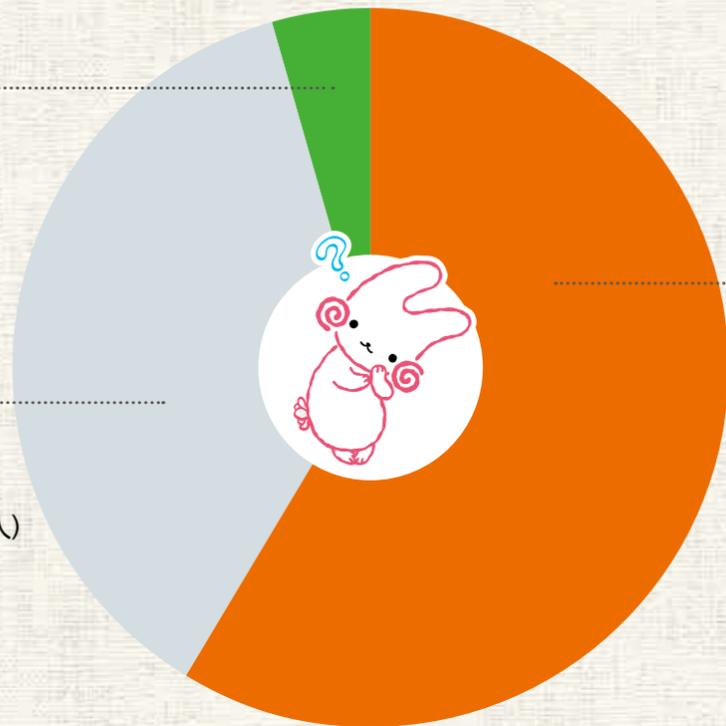
主な理由は?

- 夫が在宅勤務(4人)
- ひとり親(2人)
- 専業主夫(1人)

妻・夫で半々37.1%
(94人・13人)

主な理由は?

- 普段から(49人・11人)
- 在宅勤務で時間が増えた(14人・1人)



主に妻58.7%
(151人・18人)

主な理由は?

- 夫の仕事が多忙(64人・10人)
- 普段からしない(47人・2人)
- ひとり親(3人)
- 単身赴任(4人)など

でも、夫と家事を分け合った人もいますよ

コロナ自粛でも、家事はやっぱりママ中心だったね



「主に妻」と回答した方からは、「夫の残業が増えた」や「仕事が休みになり、期間限定で専業主婦になった」などの声がありました。「夫・妻で分担」とした方は、「普段から」という人が多数派でしたが、在宅勤務で夫が家事を引き受けてくれるようになったという回答もありました。

このアンケートについて

実施期間=令和2年7月29日~8月31日
調査方法=市ホームページもしくは直接回収
回答者=535人(女性477人、男性57人、その他1人)
回答者属性=市内在住・在学・在勤406人、それ以外129人
右2次元コードからアンケートについて閲覧できます





LINE相談から 見えてきたこと

あけぼの総合法律事務所 鳥生尚美 弁護士に聞く

◆コロナ自粛期間にLINEの相談窓口を開設

コロナ以前は、弁護士会、法テラス、市役所での相談等市内で法律の専門家が市民の相談にのることができました。ところが、緊急事態宣言以降、法テラスや弁護士会は相談業務を停止しました。一方で、家族が常にいっしょに過ごす状況下では、家庭内暴力がある、または懸念される家庭の場合、安全な居場所がなくなり、相談機関に相談に行ったり電話をしたりすることが難しくなりました。また、非正規で働いていた人たちが解雇・雇止めになるなど、コロナ禍ならではの問題が出てきました。アキボの今回のアンケートにも「収入が減った」という回答がありますね。

そういう方たちのために「どこかで相談窓口を開いておかなければ」と思い、LINE相談を始めました。開設早々からSNSで拡散され、全国から、DV(家庭内暴力)に悩む人や、休校中に親からの精神的虐待を受けている若い人などから相談が寄せられました。3月31日の開設後、まる2か月の活動期間中に157件もの相談がありました。

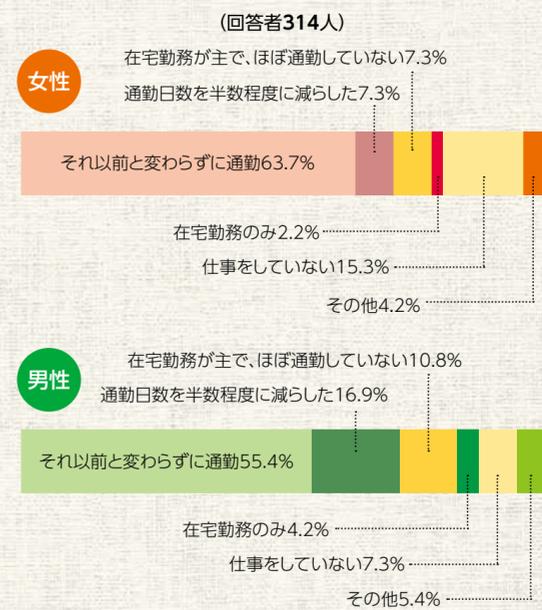
DV被害者は経済的な不安で逃げられないケースが多いので、私たちは警察をはじめ、公的な支援機関、民間の支援団体などに相談者をつないで、避難や次の生活に移れる手配をしました。

◆コロナを経て今後の社会は

今回のコロナで仕事や収入が減った人は、生活保護や社会福祉協議会の福祉貸付制度、住宅確保給付金制度などを自らの権利としてぜひ利用してほしいと思います。行政の支援につながるチャンスでもありますよ。コロナは働き方や生活時間、地域を見直すきっかけとなりました。新しい働き方を掲げる大手企業も現れているようです。若い人たちが「安定」を犠牲にしない「柔軟な選択肢」を持つ企業を選んでいくことで、今後の社会が変わっていくと思います。

「コロナ自粛」期間中、 働き方はどう変わった？

自粛期間の働き方の変化について回答をいただきました。男性に比べ、女性のほうが働き方に変化がない方が多かったようです。



ひとり親家庭とコロナ禍

立川市ひとり親家庭福祉会 立川みらい
代表 篠原輝美

ひとり親家庭は、もともと脆弱な基盤で生活しているので、コロナ禍で非正規雇用の家庭は一気に減収や失業となりました。

そこに学校、保育園の休校・休園が重なり、仕事があっても働けない状況に追い詰められ、ひたすら不安を募らせる親子が増えました。食べるだけでも大変なのに、子どもたちと関わることや教育まで、すべてがいつもの何倍もの負担となって親のメンタルを攻撃しました。

給付金も、民間アパートに住んでいれば、家賃・光熱費であつという間に消えてしまいます。シングルマザーの平均年収は厚労省調べで243万円(平成28年度全国ひとり親世帯等調査結果報告)、非正規雇用だとさらに少なくなります。児童扶養手当などがあっても生活は厳しいままです。

だからこそ「立川みらい」では子どもたちにコロナ前と同じとはいかないまでも、少しでもおなかを満たしてほしいと、食の支援に奔走しています。食の支援を通してつながりを感じ、ひとりではないと安心してもらえるように努力しています。

あるシニア男性の独りごと

「今日の体温、何度？」

毎朝、妻のこの一言で、一日が始まる。介護職の妻は、自分だけでなく、家族が新型コロナウイルスに感染していないか気がかりなのだ。

ところで、コロナウイルスのお陰で、私の生活は一変してしまった。とにかく、家から外に出かけることがめっきり少なくなった。

私は、小学校の教員をしていたこともあり、定年退職後も、子どもたちとの出会いを大切にしてきた。とにかく、子どもと会っていると、自分自身が生き生きしてくるのだ。後期高齢者の年になっても、元気なのは、実は、子どもたちの存在なのだ。

いつもなら、市内の小学校で、子どもたちと一緒にホテルを飛ばしたり、

学校のプールが始まる前に、「ヤゴ救出大作戦!」をしたり、学校支援ボランティアで、「昔の道具」の話をしたり、教室で、学習につまずきのある子に学習支援をしたりと、大忙しだった。

ところが、今年は、コロナのお陰で、まったく子どもたちと会うことができなくなってしまったのだ。

気がつく、最近、物忘れが激しく、その上、考えることが億劫になってきた。コロナウイルスに感染すること以上に、子どもたちに会えなくなってしまったことは、私にとって、深刻な問題である。

「コロナよ! 子どもたちを返してくれ!」

(H)



「相手との関係が何かおかしい、つらい」「DVかも」と思ったら、ひとりで悩まずご相談ください。

■DV相談+(プラス)

▶電話相談=☎0120(279)889 (365日24時間対応)
そのほかSNS(チャット)相談、メール相談などは、「DV相談+(プラス)」のホームページをご覧ください。

▶DV相談ナビ=#8008も同様の相談を受け付けています。
[受付時間は各相談窓口の受付時間による]



■東京ウィメンズプラザ

☎03(5467)2455 (午前9時~午後9時(年末年始を除く))

■女性総合センター

☎(528)6801 (カウンセリング相談(予約制)、毎週火曜・水曜・土曜日の午後1時~5時(土曜日は電話相談のみ))

アンケート回答を読み解く「コロナ自粛」どう過ごした？

(回答者数はオレンジが女性・緑が男性)

①自粛で良かったことは？ 生活にゆとり・家族との時間

(回答者297人 279人・18人)

生活にゆとりができた 83人・5人
 家族のきずなが深まった 83人・4人
 お金をあまり使わなかった 27人・4人
 テレワークや時短でゆとり 24人・1人
 家族が家事に協力するようになった 16人
 その他(電車がガラガラ、コロナ情報に詳しくなった、オンライン交流ができた、飲み会がなくなったなど)

「人生のギフトのような時間」「のんびりさせて良かった」という肯定的な意見が多数ありました。でも「娘が、三食父親と食卓を囲めてパパっ子になった」「社会人の子たちが早く帰り、食事を一緒に食べることができた」などの回答からは、コロナ自粛以前の働き方に疑問も。今回の自粛は、日頃の生活を見直すきっかけになったかもしれません。



②自粛で大変だったことは？ 食事の準備・子どもの世話・外出できない

(回答者392人 353人・39人)

食事の準備と子どもの世話 115人・9人
 外出できない・ストレス発散できない 112人・3人
 孫や友人など親しい人に会えない 54人
 マスクやトイレ紙が足りない 25人・1人
 常にマスクの生活でストレス 18人・3人
 感染対策を考えるのが大変 19人・2人
 仕事が減った 収入が減った 15人・1人
 食費・電気代増えた 14人
 その他(通勤不安、オンライン業務、保育園が休み、体力が落ちた、夫がずっと家に居た、閉店が早いなど)

「パソコンを開けると、下の子が抵抗」「子どもの課題を帰宅後に見た」「夫が在宅勤務中は、子どもを外に連れ出さないといけませんが、行く場所がない」「子どもの世話で仕事時間が短縮され、収入が減った」など切実な声が寄せられました。また、思うように外出できない、高齢の親に会えない、一人の時間がないことでストレスも。

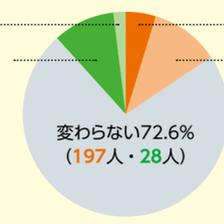


③コロナ自粛後、夫婦の関係は？ 変わらないが7割 だけど...

(回答者310人 273人・37人)

悪くなった1.9%(6人) 良かった4.8%(12人・3人)
 やや悪くなった9.7%(28人・2人) やや良かった11.0%(30人・4人)

●「悪くなった」の主な理由
しつけをめぐる意見が違ふ。
コロナ対策の価値観の違い。
在宅ワークで家事をしてもらえない。
夫の仕事がなくなりケンカが増えた。



●「良かった」の主な理由
いっしょにいる時間が増えた。
話す時間が取れた。
家族のありがたさを再認識。
お互いに協力しあえた。

「ずっと家に居るのに家事をしない」「夫はカレンダー通り休むが主婦には休みがない」など家事分担を意識しない夫への不満が、在宅時間が長くなり増幅された人もいました。逆に「家にいる時間が増え、これまで我慢していたことも話し合えた」「子どもに積極的にかかわってくれた」という声も。コロナ自粛、深い!

④休校中の子どもの対応は？ やはりママの対応が多数派

(回答者195人 169人・26人)

主に夫6.7%(11人・2人) 主に妻61.0%(104人・15人)
 夫が在宅勤務(3人・2人) 夫の仕事が多忙(45人・9人)
 ひとり親(2人) 普段からしない(8人)
 妻・夫で分担32.3%(54人・9人) ひとり親(3人)
 共働きのため(7人・7人)
 夫が在宅勤務になった(3人)

「主に妻」との回答には「仕事に行く日は、実家に預けながらこなし」や「主人が仕事のない日でも、遊びに行くから」という声(ともに妻)があり、がっかり。パパはどこ？



立川・この人

フィンランドと日本をつなぎたい 人間は自由で、尊敬されるべき存在です

ゲイ・アート作家を描いたフィンランド映画『トム・オブ・フィンランド』の日本語訳を監修。

外務省語学講師・至誠ホーム嘱託

橋本ライヤさん



●母国フィンランドから遠い日本へ、思い切った決断でしたね。

フィンランドは、日本よりやや小さいのですが、人口がたったの550万人。人口密度はとても低い国です。緯度が高いため、夏は、日が沈まない白夜が続く一方、冬は一日中、日が高く昇らず、昼も薄暗いというお国柄です。

そんな国から、夫である橋本正明(至誠学舎立川理事長)の住む日本にきたのは、46年前のことです。彼は福祉を学びにフィンランドに留学していました。私たちは同じ大学で学び、親しくなりました。私はもともと外国に憧れていて、語学の教師か外交官として、他国に行くのが夢だったので、日本に行くことにも迷いはありませんでした。最初のうちこそ、とまどう

こともありましたが、そのうちに東海大学や外務省でフィンランド語を教えるようになり、語学を通じて両国とのかけ橋になりたいという夢がかないました。至誠ホーム(高齢者施設)のクラブ活動で英語を教えたり、フィンランドの文化を地域に発信しています。

●ゲイの男性アーティストを描い

たフィンランド映画を監修されたのは、どのような思いから？

2017年に製作された『トム・オブ・フィンランド』は、同性愛者でイラストレーターだったトウコ・ラクソネンの半生を描いた映画です。彼はトム・オブ・フィンランドというペンネームで、愛する男性たちの美しさを官能的なドローイングで表現しました。

フィンランドで、登録パートナーシップ法が施行されたのは2002年です。トウコの生きた時代(1920年〜91年)は、まだ同性愛は許されておらず、彼ら自らの思いを、家族にも隠して絵



美しいフィンランドの白夜

に託すほかありませんでした。しかしその力強い絵はゲイ・アートの先駆けとして、ゲイたちを勇気づけるとともに、幅広いジャンルの人々に影響を与えました。

彼は絵を通して、人は自由であること、平等であること、そして社会は公平でなくてはならないことを世界中の人々に示しました。

映画のメッセージ、それはフィンランドがめざす国の方向と同じです。だから大使館が映画の後援をし、私に監修の推薦をしてきたのだと思います。

ちなみにフィンランドでは2017年によく、同性カップルも、法的に認められ、結婚式を行い、養子を迎えることができます。ようになりました。

現在、首都ヘルシンキでは「プライド・パレード」と呼ぶ大きなLGBTの大会が毎年開かれています。個人の性的指向は、その人の人となりとして認めますね。

●フィンランドで世界最年少、34歳の女性首相が誕生しました。サンナ・マリン首相ですね。フィンランドでは、実に国会議員

200人中92人、内閣19人中11人が女性です(2020年11月13日現在)。育休を取る大臣もいます。ジェンダーギャップ指数は世界第3位。男女格差が非常に小さい国です。もともと人口が少なく、男女がともに国をつくっていきこうという気風が強く、独立前のまだロシアの自治領だった時代に、女性の参政権と被選挙権(1906年)が認められています。

しかし女性たちが本格的に政治に参入し出すのは、やはり70年代に入ってからです。そして女性政治家が増えると、目に見えて福祉などの社会制度が良くなり、目標とする国の姿が明確になりました。つまり、人間の自由が尊重され、公平で、寛容な社会、ひとりひとりが尊敬される国家こそが私たちのめざす国であると。

フィンランドにも課題はありません。しかし、進むべき方向がはっきりしているのです。そこに向けて進んでいけると思います。

日本には、日本の文化があり、フィンランドの例をそのまま当てはめるのは難しいですが、私はそんな日本と母国とのかけ橋を、これからも担いたいと思っています。

審議会等に参加して女性の意見を市政に

「審議会等」とは、市民や専門家の意見を施策に反映させるための機関です。

誰にとっても住みやすい市にするため、さまざまな分野の公募委員に応募し、女性の声を市政に届けましょう。

男女平等参画苦情処理制度をご存じですか

立川市男女平等参画基本条例では、市の施策が男女平等参画の促進に影響を及ぼす場合等に、男女平等参画苦情処理委員に苦情の申し出をすることができます。申出書の提出方法等は男女平等参画課にお問い合わせください。

「情報紙アィム」へのご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどお寄せください。

danjobyoudou@city.tachikawa.lg.jp
バックナンバーは、立川市ホームページから「情報紙アィム」で検索してください。

アィム企画・編集

市民編集委員：原和美(助言者)、萩本悦久、長谷山聡子、矢鳥友美(イラスト協力)

令和2年度立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所を認定しました

株式会社ウオールナット

取り組みの主なポイント

- 在宅勤務、モバイル勤務が可能なテレワーク制度
- TOKYO働き方改革宣言企業として「働き方の改善」と「休み方の改善」を宣言
- 「健康優良企業」として国より認定
- 新型コロナウイルス抗体検査を定期的実施

株式会社オカムラ 立川支店

取り組みの主なポイント

- ノー残業デー、フレックスタイム制度、時間単位有給休暇制度、在宅勤務制度等を導入
- 男性従業員の配偶者出産休暇取得の義務化と子育て準備面談の実施
- ダイバーシティ&インクルージョン専任部署の設置
- すべての役員・従業員を対象にLGBTについての研修を実施

佐竹特殊鋼株式会社

取り組みの主なポイント

- エコアクション21の取り組みによるSDGsの目標として、ゴール5 ジェンダー平等を掲げる
- 女性専用の食堂、更衣室、トイレの設置、産前産後休暇取得の見直しを実施
- 年2回のBBQ、ボウリング大会を実施
- 責任者に対してパワハラ講習を実施し、相談窓口の設置に関して周知徹底

認定事業所の取り組みがわかる「立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定式」&ミニセミナー開催!!
令和3年2月3日(水)午後1時から 詳しくは広報たちかわ(12月25日号掲載予定)、または立川市ホームページで